

地域ぐるみで農作物を守る

村田町では近年、イノシシ等の増加により、農作物の被害が拡大。そのため個々人が電気柵などを設置し、被害を最小限に食い止める対策をしてきた。柵の設置は、比較的安易で効果がある一方、効果的に正しく設置することや、維持管理のための刈り払いなどに労力がかかる。

菅生楯道地区では、昨年末から、県の事業を活用し、鳥獣対策の専門家を招き、効果的な対策の実施に向け、ワークショップを実施。ワークショップでは、イノシシの生態や特性について学び、現地に適した防止対策の意見を出し合った。



「対策しているにも関わらず、被害が減らない」、「この対策で本当に間違っていないのか」あるいは「定かではないが、イノシシも賢くなってきているのか？」など、数多く声が寄せられた。



効果を発揮する柵の設置場所を選定中

その結果、電気柵及びワイヤーメッシュ柵を設置するなどの対策を地元住民で合意。侵入防止柵を設置して被害の拡大を食い止める計画だ。

自分の地区を守るのはやはり自分たち。地域ぐるみで協力して、農作物を守っていくことが重要だ。